面脂
口脂

ノ根五郎、さるぐまは朝比奈などの作りなり、其數多し、

〔江家次第十七〕御元服

東向厨子中有三層、略○中 中層置同螺鈿唐匣、蓋上懸子中置面脂、口脂筥各一口、

〔類聚雜要抄二調度〕一被加以前御調度外御物事

口傳　關白相府仰云、略○中 有唐匣蓋、上之小筥納面脂、口脂筥等云々、件筥以銀作之、其體有故云々、

〔事物紀原三冠冕首飾〕面脂

廣志曰、面脂、自魏興已來、始有之、

化粧水

〔釋名四首飾〕脂、砥也、著面、柔滑如砥石也、

〔我衣〕伽羅ノ油ハ古來ナシ、寛永ノ末ニ、芝神明前ニセムシ喜左衞門ト云者、花ノ露ト云藥油ヲ製ス、面部ノフキ出物ニヨシ、面ニツヤヲ付ル匂ヒ油ナリ、

〔好色一代男三〕口舌の事ふれ

玄ぶり皮のむけたる女は、心のまゝ晝寢して、手足もあれず、鼈甲のさし櫛、花の露といふ物も知りて、すこし匂をさすに、親方も見ゆるすぞかし、

〔嬉遊笑覽一下容儀〕花の露と云も藥油にて、面につやを出す者なり、

〔吉原徒然草下〕百十段　二月十五日月あかき夜

玄たるき女の顏、花の露にてひからせたる跡先になりて、そばへよりそへば、略○下

〔都風俗化粧傳下身嗜〕花の露の傳

此香藥水は、化粧して後、はけにて少しばかり面へぬれば、光澤を出し、香ひをよくし、きめを細かにし、顏の腫物をいやす、

花の露とりやう